

# 公衆浴場が地域コミュニティの形成に与える影響に関する研究

宇都宮大学 学生会員 ○横山 進乃助 宇都宮大学 正会員 大森 宣暁  
宇都宮大学 正会員 長田 哲平

## 1. はじめに

### (1) 研究の背景と目的

公衆浴場は、公衆浴場法に基づき、地域住民の日常生活において保健衛生上必要なものとして利用される一般公衆浴場と、保養・休養を目的としたその他の公衆浴場とに分類される。そのうち、一般公衆浴場は、家庭に内風呂が備わっていなかったため、昭和38年に最盛期を迎えていた<sup>1)</sup>。日常的に公衆浴場を利用するため、地域住民の情報交換や交流の場としての機能を有していた<sup>2)</sup>。しかしながら、経済成長などにより家庭に内風呂が普及<sup>3)</sup>すると、公衆浴場を利用する機会が減少<sup>4)</sup>し、宇都宮市においては昭和45年時点で39軒存在していた<sup>5)</sup>一般公衆浴場は令和4年現在1軒しか存在していない。これにより、地域住民のコミュニティ形成の機会が減少してしまうこと、サードプレイスとなり得る場所の減少が懸念される。ここで、サードプレイスとは、アメリカの社会学者である

Oldenburgが1989年に著書「The Great Good Place」にて都市の魅力を高める概念・哲学として提唱した、都市居住者にとって生活上欠かせない家、職場・学校に加え、必要とする居心地のいい三番目の場所のことである<sup>6)</sup>。

現在と今後の社会において地域の人々に対して、一般公衆浴場が社会的な機能を有しているのか、そして地域コミュニティの形成要因について調査することは有意義である。宇都宮市では、ネットワーク型コンパクトシティを将来の都市構造としてまちづくりを進めている<sup>7)</sup>が、「市民生活の質の向上に資する住宅地の形成」を目指すためには、地域内の住民同士のつながりが大切であり、そのために秩序ある地域コミュニティの形成が必要であると考えられる。

そこで本研究では、日本の中核都市であり都市部や工業地帯、田園地帯といった地域によって多様性のある栃木県宇都宮市における、現存する一般公衆浴場に着目し、アンケート調査にて、地域住民のコミュニティ形成の要因を分析する。これを一般公衆浴場がある地域とそうでない地域にて比較することで、一般公衆浴場が地域コミュニティの形成に与える影響を明らかにすることを目的とする。

### (2) 既存研究の整理

公衆浴場に関する既往研究では、中山ら<sup>8)</sup>は、地方都市における一般公衆浴場の変容を平面や設備からの視点とそこに関わる人々と社会の視点から検討し、変容の原因や存在意義の変化を明らかにした。地域コミュニティに関する既往研究では、小林ら<sup>9)</sup>は、市街化区域と市街化調整区域において生活行動、地域に対する意識、地域愛着に影響を与える要因を比較・分析し、住民の地域愛着意識を高めていくためには地域内における住民同士の交流を促進することが最も大きな要因となり得ることを明らかにした。サードプレイスに関する既往研究では、山田ら<sup>10)</sup>は、大学生のストレス解消のために訪れるサードプレイスについて調査を行い、サードプレイス利用の全体傾向や利用する施設・滞在時間、ストレス解消方法を明らかにした。なお、この調査中でサードプレイスの選択として銭湯（一般公衆浴場）を選択した人が存在することが分かっている。

以上のように、公衆浴場の変容に関する研究や住民同士の交流が地域愛着意識に与える影響に関する研究、サードプレイスについての研究は存在するものの、公衆浴場が地域コミュニティに及ぼす影響についての研究は十分になされていない。そこで本研究では、公衆浴場を中心とした地域住民の生活行動や公衆浴場の利用意識を調査し、地域コミュニティ形成に与える影響について分析を行う。

## 2. 研究概要

### (1) 調査対象について

本研究では、令和5年1月現在、宇都宮市に唯一存在する一般公衆浴場「宝湯」周辺11町丁目と、宇都宮市内で最も直近の平成30年3月に閉鎖された一般公衆浴場「さざなみ湯」周辺17町丁目の住民を対象とした。

### (2) アンケート調査概要

令和5年1月、公衆浴場に対する地域住民の印象および地域コミュニティの形成要因を把握するため、独自のアンケート調査を実施した。このアンケート調査は、あらかじめ対象地域として設定した地域に直接訪問し、戸別投函することによって配布を行った。同封する返信用封筒を用いて返信してもらい集計する。また、GoogleフォームのリンクのQRコードをアンケー

ト上に添付することにより、ネット上と書面の二通りで回答できるようにした。

### (3) 調査項目

このアンケート調査における質問項目は、「個人属性」、「地域の公衆浴場の認知・利用度」、「地域に対する意識」、「サードプレイスの存在の有無」などである。

## 3. アンケート集計と分析

### (1) サードプレイスとなっている施設に関して

サードプレイスとなっている施設を複数選択により回答してもらう設問を設けた。執筆時点で72件の回答を得られているが、その結果を図-1に示す。一番多い回答として「公園・緑地など」が全体の33.3%だった。「温浴施設」は全体の19.4%であり、このことから、温浴施設はサードプレイスの一つとして機能していると考えられる。

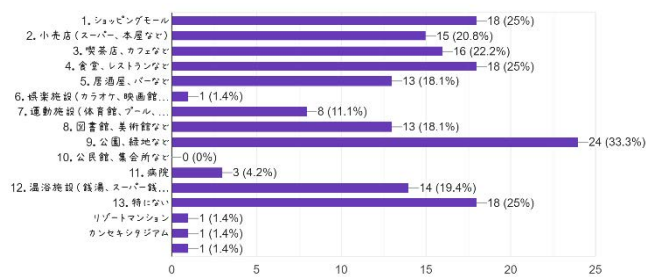


図-1 地域住民のサードプレイスとなっている施設

### (2) 温浴施設の利用目的に関して

温浴施設で入浴以外に行う活動を複数選択により回答してもらう設問を設けた。執筆時点で得られた72件の回答結果を図-2に示す。結果として、入浴以外に目的がない人が全体の34.7%と最も多かった。現在は、多くの温浴施設で浴室内の会話を控える「黙浴<sup>11)</sup>」が推奨されているものの、「会話・交流」を目的とする人が全体の6.9%で存在し、僅かな数値であるものの、温浴施設は交流の核としての潜在能力を持っていると考えられる。

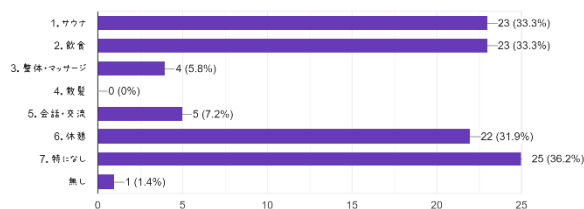


図-2 温浴施設における入浴以外に行う活動

## 4. 今後の展望

アンケート調査によって得られる公衆浴場の利用度や印象および地域に対する意識、サードプレイスの存在の有無に関する情報を用いて、公衆浴場が地域コミュニティの形成要因に影響を及ぼす要因を統計的に分

析していく予定である。

## 参考文献

- 1) 東京商工リサーチ：町の銭湯，ピークから1万6000軒減少 2022年4月23日 [https://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20220423\\_01.html](https://www.tsr-net.co.jp/news/analysis/20220423_01.html)
- 2) 津倉真優子，後藤春彦，佐藤宏亮：地縁組織が経営する地域共有の場としての酒場の機能に関する研究—浜松市村櫛町の村櫛酒販所におけるコミュニティ財の運用と情報交流の仕組みに着目して—，都市計画論文集，Vol.44，No.3，pp.559-564，2009.
- 3) 湯の国：其の二「内風呂化の時代」  
<http://www.yunokuni.com/nenshi/vol2/page1.html> 閲覧日：2022年12月22日
- 4) 厚生労働省：浴場業の実態と経営改善の方策（抄）2019年12月10日
- 5) がりつうしん：宇都宮市内の銭湯 2020年3月13日  
<https://garitune.hatenablog.jp/entry/2020/03/13/000000>
- 6) 宇都宮市：ネットワーク型コンパクトシティ 2016年9月16日  
<https://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/shisei/machi/1007653.html>
- 7) 久繁哲之介：都市にサード・プレイスを創る，民間都市開発推進機構 Urban Study，Vol.46，pp.1-199，2007.
- 8) 中山満美，辻原万規彦，細井昭憲，安浪夕佳：地方都市における一般公衆浴場の変容に関する研究，日本建築学会技術報告集，第13巻，第26号，pp.679-684，2007.
- 9) 小林直樹：地方都市郊外在住者の外出行動と地域愛着に関する研究，宇都宮大学都市計画研究室，2017年度卒業論文
- 10) 山田崇史，森口元貴：大学生のストレス解消に利用されるサードプレイスに関する研究—郊外型キャンパスに通う学生を対象として—，都市計画論文集，Vol.53，No.3，pp.1215-1222，2018.
- 11) 東京銭湯：会話を控える「黙浴」にご協力ください 2021年2月8日 <https://www.1010.or.jp/mag-topic-210208/>